

さいたま来ぶらり通信

Saitama Library



さいたま市

2009年
4月15日発行
第9号

◆CONTENTS◆

わがまちSai発見
…2~3

浦和で石井桃子をよむ

図書館入門 …4

4月23日は「子ども
読書の日」

ちょっと足をのばして
～類縁機関紹介…5

中東博物館

ハロー！来ぶらり
…6

大宮東図書館

としょかん
探偵事務所 …6

ちまきと柏餅のお話

ビジネス相談会の様子。
相談は1人1時間です。



子育て中の女性のためのセミナー。子ども連れで参加の方も。



ビジネスの情報収集は図書館で 中央図書館のビジネス支援サービス

仕事に役立つ コーナーあります

中央図書館は、(財)さいたま市産業創造財団や埼玉国際ビジネスサポートセンター、さいたま市経済局経済部などの連携協力のもと、ビジネスに役立つ資料や情報を収集・提供するサービスを行っています。

館内のビジネス支援コーナーには、起業、創業、企業、業界人物、キャリアアップ、資格などビジネスに関する資料や『会社四季報』『会社年鑑』『CSR・環境報告書』などの資料をそろえています。関連機関のパンフレットやリーフレット、各種セミナー案内、ハローワークなどの求人情報を集めた『ビジネス情報パンフレット』

ちらしコーナーもありません。新聞・雑誌記事や法律・科学技術・経済経営に関する情報が検索できる各種オンラインデータベースや、インターネット端末も整備しています。ぜひご利用ください。

ビジネス相談会・ 講演会もどうぞ

中小企業診断士や社会保険労務士、弁理士などの専門家によるビジネス相談会や、セミナー、講演会を無料で開催しています。

ビジネス相談会のテーマは、コミュニケーションビジネスや創業、特許など。

昨年12月から2月にかけて開催した創業セミナー「子育てを大切にしながら働きたい貴女へ」は、募集開始とともに定員がいっぱいになる人気ぶりでした。

3月のビジネス支援講座「キャリア・カウンセラーから見た現代若者就職事情」には、20代から50代の幅広い年齢層の参加者が集まりました。

これからもビジネスに携わる方々に役立つ催しを企画・開催していきますので、お気軽にご参加ください。

館内のチラシやポスター、図書館のホームページも見てね。



本を紹介する学芸員の吉本さん。「美術館でのギャラリートークとはちがって、じっくり本を見てもらいながら話すことができました」

「本をめぐるアート」のお話 「うらわ美術館との連携事業

うらわ美術館とさいたま市図書館は、これまで「須田剋太展」「プラティスラヴァ世界絵本原画展」など美術館の企画展示にあわせて連携事業を行ってきました。今までは図書館員が美術館へ出張してギャラリートークやおはなし会を開催していましたが、今回の連携は、図書館へ美術館の学芸員を講師として招くという初の試みでした。

南浦和図書館で2月から3月にかけて計3回の講座を開催。「本は小さな美術館」近代日本の装幀を見る」「現代のアーティストと絵本」「色と形と音を楽しむ」親子のための対象絵本のおはなし」と講師によって内容もさまざまです。

「本は小さな美術館」では、学芸員の吉本さんに明治以降の本の装幀について、貴重な初版本などを間近に見ながら作家と画家とのエピソードや装幀にみられる創意工夫を教えてくださいました。出席者からの積極的な質問もあり、充実した時間となりました。



『幼ものがたり』原画展

吉井爽子氏による挿絵原画を展示いたします。
平成 21 年 4 月 16 日(木)～30 日(木)
(20 日(月)と 22 日(水)はお休み)
午前 10 時から午後 5 時まで
中央図書館イベントルームにて

『幼ものがたり』のころ。前列左から 2 番目、犬を抱いているのが石井さん。ほか、両親と姉たち、姉の子たち、そして「まあちゃん」。大正中期

写真：3 点ともさいたま市立中央図書館所蔵

東京に住んでいる人間が、生まれ故郷などというわさをするには、たしかに浦和は近すぎる。けれども、浦和は、生まれたるところだし、両親がねむっているところだし、また、いまも身内が住んでいるところだしするので、私にとっては、日本じゅうでかけがえのない場所なのだ。

「生まれ故郷」(1954年、『石井桃子集7』所収)

児童文学作家の石井桃子さんが一〇一歳で亡くなって一年。その遺産の豊かさは石井さんの不在なと感じられないほどです。

とはいえ、石井さんがいないのは事実。いま石井さんを知ろうとするなら、残された作品や言葉にあたるしかありません。まるで物語の登場人物のように、言葉のなかに石井さんを思い描いてゆく…それは、いまはじめて意識的に石井作品を読む人はもちろん、いままで親しんできた人にとっても、スリリングな読書になるのではないでしょうか。

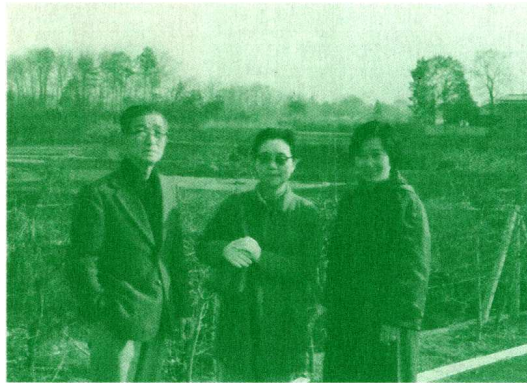
そんな石井さんの物語は、ここ、さいたま市からはじまります。



一九〇七年に現在の浦和区常盤にうまれた石井さんは、幼少の頃の思い出を一九七七年から雑誌上で発表しはじめます。それが『幼ものがたり』です。

■『幼ものがたり』

石井さんは「自分と出会う」(『石井桃子集7』所収)というエッセイで、「もうひとり」の自分によって外から見られたと思える記憶」について語っています。ある出来事が「ヒントの合った写真のように」、「鮮明な写真」として、石井さん自身も映しこんで、記憶に残ってしまうことがあるとのこと。



上)砂浜の絵をバックに撮影(右手前が石井さん、小学生ごろ)大正中期下)『幼ものがたり』の取材で、今の緑区三室を訪れたとき(左・歌人の故・星野丑三氏、右・挿絵を描いた吉井爽子氏) 1977年頃

この不思議な感覚は『幼ものがたり』でも「まるでもう一人の私が、自分を外がわから見たいように、あたりの情景もとも、心に描ける」と語られていて、『幼ものがたり』を特徴づけます。『幼ものがたり』がただの思い出ばなしのようにみえないのは、まるで一枚の写真から事件を推理してゆくミステリーさながら、幼いころの出来事のある決定的なイメージから手探りでたどってゆく過程そのものが書かれているからです。どうしても名前を思い出せない友達がいったり、前後の脈絡を欠いて写真のように焼きついた記憶があったりするかと思えば、話を

すすめるうちに思い出してくる出来事もあります。そんなスペースと、簡潔でユーモラスな描写がこの『幼ものがたり』の魅力。そしてさいたま市に住む者の特権は、石井さんが語る舞台が身近にあることです。

「私の家は、中仙道に面していて昔の浦和の宿の北のはずれにあつた」とあるとおり、いまの浦和駅と北浦和駅の間辺りで石井さんはうまれました。そこは幼い子のこと、おもな舞台は生家の近辺に限られますが、だからこそ、浦和を知らない人はどう読むのだろうと不安になってしまつくり、浦和の描写に満ちています。

もちろんいまでは変わってしまった風景や生活(ちよんまげのおじいさん)もありますが、『幼ものがたり』のなかの石井桃子は、よりいっそうリアリティをもつて私たちのまえに登場してくるはずだ。

■石井桃子と浦和

「くくなる前年の一〇月」、浦和の昔のことで確かめたいことがあるのだが」と石井さんから図書館に連絡をいただき、資料を用意して、職員が石井さんを訪問する

機会がありました。その際手土産に持参したお団子を見て、「駅前の店のものね」と石井さん。「昔、父親である主人が亡くなって、女手だけでどうするのだからと皆心配していたの。でも、娘三人が店番に出るようになると、師範学校の学生たちの行列ができ繁盛してね。世の中、うまくまわるものだなと感心したものです」と、臨時に記憶がよみがえってこられたのでしよう、思いがけない話を伺うことができました。浦和はいつまでも気がかかる町であったようです。『幼ものがたり』以外でも折にふれて浦和について語った石井さん。ぜひ、浦和をきっかけに石井桃子の世界にふれてみてください。

引用・参考文献

- ・石井桃子集 4 『幼ものがたり』岩波書店 1999
- ・『同 7 エッセイ集』岩波書店 1999
- ・金井美恵子「私の幼年時に埋め込まれた一部分 『石井桃子』」(『本を書く人読まぬ人』)『この世にわたるPART 2』所収 日本文芸社 1999
- ・石井桃子(川本三郎インタビュー)『本の出会い・人との出会い』(『近代日本文化論』8)所収 岩波書店 2000
- ・並木せつ子『本と浦和』さいたま市立中央図書館 2008

4月23日は「子ども読書の日」

図書館
入門

平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が公布・施行され、毎年4月23日を「子ども読書の日」とすることが法律で定められました。国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために設けられた日です。

また、この日から5月12日までの約3週間は「こどもの読書週間」とされています。

さいたま市の図書館も「子ども読書の日」を記念して、さまざまなイベントを開催します。

◇中央図書館

4/25(土)	石井桃子追悼講演会「『幼ものがたり』原画を描いて」	14:00～16:00	講師：吉井爽子氏(画家) *申込受付は終了しました。
4/16(木)～4/30(木)	『幼ものがたり』原画展	10:00～17:00	イベントルームにて
4/23(木)～	子ども読書の日記念 展示	開館時間中	「本は王さま2009」紹介本

◇北浦和図書館

4/23(木)	子ども読書の日記念 おはなし会	15:30～	ペープサート・布あそび他
4/23(木)～5/31(日)	子ども読書の日記念 展示	開館時間中	「本は王さま2009」紹介本

◇南浦和図書館

4/23(木)	「くるくるロケット」を作ろう	3歳位からの幼児 (保護者可)	15:00～	申し込み不要。 時間迄に2階児童カウン ター前へ
		小学生のみ	16:00～	

◇東浦和図書館

4/23(木)～5/10(日)	子ども読書の日記念 展示	開館時間中	図書館おすすめの本
-----------------	--------------	-------	-----------

◇大宮西部図書館

4/23(木)	子ども読書の日記念 としょかんたんけんツアー	16:00～	小学1・2年生 申込制
---------	------------------------	--------	-------------

◇大宮西部図書館三橋分館

4/23(木)	子ども読書の日記念 おはなし会	10:30～11:00	わらべうた・読み聞かせ他
---------	-----------------	-------------	--------------

◇北図書館

4/21(火)～5/31(日)	子ども読書の日記念 展示	開館時間中	図書館おすすめの本
-----------------	--------------	-------	-----------

◇宮原図書館

4/25(土)	子ども読書の日記念 おはなし会	11:00～	おはなし・読み聞かせ他
4/1(水)～5/31(日)	子ども読書の日記念 展示	開館時間中	図書館おすすめの本

◇春野図書館

4/1(水)～4/30(木)	子ども読書の日記念 ミニブックリスト配布	開館時間中	どのほんよもうかな？
----------------	----------------------	-------	------------

◇七里図書館

4/22(水)	子ども読書の日記念 おはなし会	幼児	15:30～16:00	おはなし・読み聞かせ他
		小学生	16:00～16:30	
4/1(水)～4/30(木)	子ども読書の日記念 展示	開館時間中	図書館おすすめの本	
4/1(水)～4/30(木)	子ども読書の日記念 ブックリスト配布	開館時間中	図書館おすすめの本	

◇岩槻図書館

4/下旬～5/31(日)	子ども読書の日記念 特別展示	開館時間中	図書館おすすめの本
--------------	----------------	-------	-----------

◇岩槻駅東口図書館

4/16(木)～5/6(水)	子ども読書の日記念 「としょかんクイズ」	開館時間中	対象：幼児・小学生
----------------	----------------------	-------	-----------

◇岩槻東部図書館

4/16(木)	子ども読書の日記念 おはなし会	11:00～	おはなし・読み聞かせ他
---------	-----------------	--------	-------------

※ 詳細は各図書館にお問い合わせ下さい。

ちょっと
足を
のばして…

類縁機関紹介
第9回

中東博物館

(アジア・アフリカ国際理解資料センター)

地元で気軽に楽しめる、中東体験



館長の背後の棚に
「三猿」コレクションがあります

おそろのおそろの玄関のベルを押すと、館長の大野正雄氏と副館長の大野はるみ氏ご夫妻が笑顔で出迎えてくださいました。スリッパを履き、まずは2階の受付へ。
壁いっぱい巨大な手書きの地図と館長の解説で「中東」地域についての予習をしたら、いよいよ中東世界への旅のはじまりです。



見た目は普通のお宅ですが…

■住宅地の中に、中東世界への入口が…
JR与野駅東口を線路沿いに大宮方面へ。住宅が並び道を歩いていると、小さな看板が見つけられました。矢印の示す路地を歩いて行ったら奥、そこが中東博物館です。

刺繍や染物、織物がたくさんある部屋では、美しい衣装を実際に着てみることもできます。これら無数の展示品は、館長が日本小学校の校長として滞在したイラン、トルコ、パキスタンや、旅をした国々で収集したものを中心。赴任中は「現地主義」をモットーに、食事も衣服も言語も現地に合わせ、現地の生活習慣、人々との交流を大事にしていたそうです。すべてが手作りのこの博物館は、そんな館長ご夫妻の中東への想いがつまった素敵な空間です。



副館長による着付け実演。

■4つの部屋に詰まった中東の魅力
まず目をひくのは、棚にびっしりと並んだ「見ざる・言わざる・聞かざる」の「三猿」たち。日光東照宮だけでなく、こんなに多種多様な「三猿」が世界中にいるとは驚きです。
続いては芸術品が集められた部屋へ。大小多数の絵画のほか、珍しい楽器がたくさんあり、吹いたり叩いたりして、音を楽しめます。映画で有名な「ビルマの竖琴」もあります。
次の部屋は、壁や棚にずらりと並んだお面や人形、「砂漠のバラ」と呼ばれる石や、パピルスの原料の草など、目移りするばかりです。



ポットを2つ使っているトルコのお茶をいただきながらの、ご夫妻のトークも魅力のひとつ。

アジア・アフリカ 国際理解資料センター (通称・中東博物館)

■所在地

さいたま市浦和区上木崎1-3-6
TEL&FAX 048-832-7381

■開館時間

館長夫妻在宅時
(電話でご予約ください)

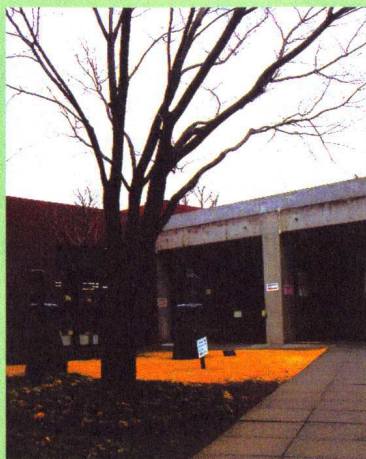
入館無料

■バラエティに富んだ講座を開催
月に1回、土曜の午後に「AA講座」が開催されます。講義のほか、中東へ行った人の報告会、中東の楽器を使った演奏会など、毎回内容も形式もさまざまです(講座への参加は有料です。参加ご希望の方は、テーマ・期日について月初めに電話でお問い合わせを！)。

大宮東図書館

小さくても力持ち

東武野田線大和田駅からのんびり歩いて15分、見沼区役所や大宮武道館など人の集まる施設に囲まれて、大宮東図書館があります。広さは約500㎡、蔵書数は9万冊ほどのこじんまりとした図書館ですが、便利な立地もあって、土日ともなれば通路がちよつと窮屈なくらいにぎわっています。最近では、市内の図書館ネットワークの窓口として上手に利用されているようです。



地域の広場として

平成4年6月の開館時より、地域の方に育まれてきました。

開館当初から開催している折紙教室は、ひなまつり・七夕・クリスマスなどの季節ごとの恒例行事として親しまれています。毎月第2・4木曜日には「えほんの会」もあります。

また、地域の方のご協力を得て、お正月に開催している「日本の風展」は、館内が全国の珍しい風でいっぱいになります。子どもたちはもちろん、郷里の風を見つけて懐かしむ方の姿もありました。



季節を楽しむ

春の大宮東図書館はお花見にもおすすめです。図書館脇の広場や、隣の大宮武道館にも、また閲覧席から外を眺めれば、彫刻を配した「図書館の庭」にも桜が見られます。これからは新緑の季節。図書館で借りた本を片手に、木陰の読書を楽しんでみてはいかがでしょう。

(所在地)

見沼区堀崎町48-1



ちまき探偵事務所

ちまきと

柏餅のお話

Q 端午の節句に「ちまき」や「柏餅」を食べるのはなぜ？

A 百科事典や食べ物辞典を調べてみました。

○「ちまき(粽)」について…『続齊諧記』によると、

「楚の詩人の屈原が五月五日に汨羅(現在の中国湖南省)の淵に身を投げたので、人々はこの霊を慰めるため、毎年竹筒に米を詰めて水に投げ入れた。

漢の武帝の時、汨羅のほとりに屈原が現れて『毎年人々が祭ってくれるが、すべて龍に盗まれてしまう。これからは棟の葉で包んで五色の糸で縛ってほしい。この二つは龍が怖がるものだから』と言った。」

とあります。この故事から、中国では粽を親戚に配り、この習いが日本に伝わって端午の節句に粽を食べるようになりました。

○「柏餅」について…カシワの葉は、夏の新葉が出たあとに古い葉が落ちるので、子どもが家を継ぎ代々栄えるようにという縁起を担いでいます。そのため、カシワの葉で包んだ餅＝柏餅を食べるようになりました。

このことから、端午の節句に粽や柏餅を食べるのは、健康祈願、難を避ける、子孫繁栄の願いが込められているためということが分かります。

〈参考文献〉『日本大百科全書』小学館、『たべもの語源辞典』東京堂出版、『食材図典Ⅲ 地産食材篇』小学館、『中国の名詩2』滄浪のうた 屈原 平凡社

編集：さいたま来ぶらり通信編集委員会 発行：さいたま市図書館

http://www.lib.city.saitama.jp/ 携帯電話用 http://www.lib.city.saitama.jp/m/ (下のQRコードを読み込んでください)

北浦和図書館 832-2321	桜木図書館 649-5871	春野図書館 687-8301	与野南図書館 855-3735
南浦和図書館 862-8568	大宮西部図書館 664-4946	大宮東図書館 688-1434	岩槻図書館 757-2523
東浦和図書館 875-9977	三橋分館 625-4319	七里図書館 682-3248	岩槻駅東口図書館 758-3200
桜図書館 858-9090	北図書館 669-6111	片柳図書館 682-1222	岩槻東部図書館 756-6665
大久保東分館 853-7100	宮原図書館 662-5401	与野図書館 853-7816	
大宮図書館 643-3701	馬宮図書館 625-8831	西分館 854-8636	

事務局：中央図書館 浦和区東高砂町11-1 TEL 048-871-2100

★★編集委員より★★ 新緑が鮮やかな季節になりました。少し足をのばしていつもより遠くの図書館に行ってみませんか？普段利用している図書館とは違う、新しい発見があるかもしれません。

